

第85回（令和8年7月）文章入力スピード認定試験（日本語）問題

わたしは友人と待ち合わせたり、ゆっくりと本を読んだり、軽くおいしいご飯を食べたりしたいときには、よくカフェを利用します。一方で、同じように飲み物を楽しむ場所として、喫茶店と呼ばれる所もあります。似ているようで使い分けられているこの二つに、どのような違いがあるのかが気になったので、調べてみました。

すると分かったのは、かつてこれらには法律上の明らかな違いがあったということでした。まず喫茶店は、飲み物の提供を主とした営業形態として位置付けられ、その種類や調理の範囲は限定されていました。一方、カフェと呼ばれる店は、それよりも幅広く想定した形態として扱われ、サービスの自由度が高かったようです。このように、両者は提供する範囲がどこまでなのかという法的な区分によって、明確にすみ分けられていました。しかし、現在では関連する制度が統合され、一部例外はあるようですが、実質的には両者に違いはありません。店の名称も事業者に委ねられるようになり、これらを提供内容や利用の仕方で区別するというよりは、空間のコンセプトやイメージで決めているということが多いようです。

さて、お茶の発祥の地といわれている中国には、古くからお茶をたしなむ習慣がありました。しかし、遠く離れた欧州で飲まれ始めたのはかなり遅く、17世紀ごろだといわれています。なぜなら、かつて両地域の交易はシルクロードを通じてほそぼそと行われていたため、茶葉やコーヒー豆は、限られた人たちが口にすることができるぜいたく品だったからです。ところが15世紀半ばごろから船による交易が始まり、欧州の経済や社会、文化に大きな変化が生まれました。茶葉やコーヒー豆が香辛料などとともに、たくさん入ってくるようになったのです。中でも英国において、これらはそれぞれ異なる広まり方をしたようです。お茶は17世紀半ばに王室などの上流階級の間で親しまれていた習慣でしたが、家庭で飲まれるものとして、庶民の暮らしに広まっていったのは、18世紀に入ってからのことでした。

一方、コーヒーも同じ時代に伝えられ、身分の高い人たちの間でたしなまれていましたが、一般に広がったのは、ある1軒のコーヒーハウスの誕生がきっかけでした。人々が店に集まり、政治や文学、芸術などについて語り合うようになり、議論する習慣が生まれました。また商談なども行われ商いの場としても重要な場所となっていったのです。18世紀初頭のロンドンには、数千にも上る数が存在していたといわれ、仕事や興味が共通する人たちが決まった店に集まっていたようです。これらは階級社会である英国において、身分や立場の異なるさまざまな人々が一堂に会し、議論を交わすことのできる希少な空間でした。つまり、ただの飲食店ではなく最新の情報が集まる重要な社交場だったのです。この時代にロンドンでこれほど多くの店があったという事実は、一部の流行ではなく生活の中に溶け込んでいたことを示しているといえるでしょう。時代や国が変わっても、人々が飲み物を囲み、交流するための場所を求めてきた点は共通しています。呼び方や形は変化しても、そこに集う人々の思いは、今も昔もつながっているように思います。

背中や黒や灰色で、腹は白、ずんぐりとした流線形で足には水かきがあり、翼はありま

すが、空を飛ぶためというよりも、泳ぐことに適していると聞いて思い浮かべるのは、ど	1, 404
の生き物でしょうか。正解はペンギンです。陸上での愛らしい歩行の様子や、それとは対	1, 444
照的に猛スピードで泳ぐ姿は、水族館や動物園を訪れる人々を魅了し、ファンがとても多	1, 484
いと聞きました。	1, 493
ところで、野生のペンギンのほとんどは、南極大陸の周辺で生活しているとされていま	1, 533
す。一方でクジラやアザラシは、北極近辺でも見ることができます。同じように寒い場所	1, 573
に生き、えさなどにも似た点があるにもかかわらず、このような生息圏の違いはなぜ生ま	1, 613
れたのでしょうか。	1, 623
その理由を明らかにするには、地球上の陸がすべて一つに集まっていたとされる、はる	1, 663
か昔までさかのぼる必要があります。この大陸が数億年をかけて分裂と融合を繰り返して	1, 703
現在の形に変化していくのですが、まずは南北に切り離されます。さらにそこから五つに	1, 743
分かれませんが、それに伴って動物たちも、それぞれの種が暮らすのに適した環境を求めて	1, 783
移動せざるを得なくなったようです。そのとき、なぜか南側の陸地には、どう猛な肉食獣	1, 823
は生息していなかったとされています。分裂以前からそうだったのか、その後に絶滅して	1, 863
しまったのかは今でもはっきりとしていないようです。いずれにしても、もし赤道より北	1, 903
側の陸地へ移動していたら、弱肉強食の世界で生き残るのは困難だったと思われる小動物	1, 943
たちは、たまたま南半球を選択したことによって絶滅を免れたのかもしれない。そして	1, 983
ペンギンの祖先たちも、こうした幸運に恵まれ、オーストラリアやニュージーランド付近	2, 023
の寒冷な海や南極大陸周辺を生息圏とし、水中での活動に適応するための進化を遂げたと	2, 063
考えられています。一部には、体の熱を放出する機能を獲得することで、赤道直下の島々	2, 103
での暮らしを可能にした特殊な種も存在しますが、その他は、彼らが好むえさが豊富な冷	2, 143
たい海を縄張りとしています。繁殖期以外は、そこで小魚や甲殻類などを捕食して暮らし	2, 183
ています。彼らの翼は、まるで船のオールのように厚くて硬いので、遊泳や潜水には最適	2, 223
ですが、空を飛ぶことはできません。また寒冷地に対応できる体を持つ多くの種は、温度	2, 263
の高い海を長時間泳いで移動することもできません。これが北極までたどり着けなかった	2, 303
理由です。	2, 309
水族館で眺めていると、彼らが鳥類であることを忘れそうになりますが、まるで空に羽	2, 349
ばたくようにプール内を泳ぎ回る姿や水面に浮かんで揺れる大量の羽毛、雌が産卵すると	2, 389
いう事実がそれを思い出させてくれます。飛べない鳥は、数千万年もの長い歴史の中で、	2, 429
環境に適応するために自らの体の形状や機能を変化させていった結果でした。そして飛ぶ	2, 469
ことと引き換えに手に入れた、豊かな漁場である海で素早く泳いだり、潜水したりする能	2, 509
力こそが、弱小な彼らが今日まで生き残ることができた重要な要素だといわれています。	2, 549
ちなみに現在、世界には18種類のペンギンが存在し、さらに特徴別に6属に分類されて	2, 589
いますが、ほとんどが赤道より南に分布しています。その中で、日本の水族館や動物園で	2, 629
飼育されているのは13種類、最も多いのが絶滅危惧種のフンボルトです。これは世界の	2, 669
生息数の4パーセントに当たるそうです。	2, 688